

## うちのねこ

高橋和枝 作  
アリス館

はる。のらねこだったねこが、うちにやってきた。うちにつくと、ねこはソファのしたにかくれて、よんでもでてこない。なんにちもでてこないねこ。1かげつたったあるひ、でてきてくれたけど、ちかづくと「シャーッ！」とおこる。なつになって、おしりをむけてすわるようになったけど、さわるとやっぱりかみつかれた。ゆっくり「うちのねこ」になっていくおはなし。

## おじさんのぼうしはどこいった？

ジョアン・L/ドセット ぶん  
フリッツ・シーベル え  
やすだふゆこ/やく  
出版ワークス

のうじょうのおじさんのおきにいりは、じぶんのむぎわらぼうし。ところが、あるひつよいかぜがふいて、おじさんのぼうしはとばされてしまいました。どこへ行ってしまったのでしょうか。おじさんは、どうぶつたちにぼうしのゆくえをたずねます。リスにきいて、ネズミにきいて、ハエにもききました。ぼうしはみつかるのでしょうか。

## 低学年

## お月見テンテン

蜂飼耳 作 おくはらゆめ 絵  
講談社

あつ<sup>なつ</sup>かった夏<sup>あき</sup>がおわり<sup>ちか</sup>に近づいて、秋<sup>あき</sup>の虫<sup>むし</sup>たちが鳴く<sup>な</sup>ようになったある日<sup>ひ</sup>、さやは、ご近所<sup>きんじよ</sup>のねね子<sup>こ</sup>さんから「あさって、お月見<sup>つきみ</sup>だから、おだんご<sup>つくだんご</sup>作ろう<sup>おも</sup>と思っているんだけど。さやちゃん、学校<sup>がっこう</sup>が終わったらうち<sup>こ</sup>に来る？よかったら、ほかの子もさそって来て。」といわれました。

お月見の日、さやは友達<sup>ともたち</sup>といっしょにおだんごをいただきにあつまりました。そこで、ねね子さんから「ものすごく大きなひみつ」をしょうかいされました。

## ミッチの道ばたコレクション うたうラッパ貝がら

如月かずさ 作 コマツシンヤ 絵  
偕成社

ミッチはおじいちゃんからもらったたからばこに、海<sup>うみ</sup>でひろった貝<sup>かい</sup>がらをしまって「道ばたコレクション」にすることにしました。しかし、にじいろにかがやくラッパ貝がらだけは、すぐにしまうのがもったいなくて、つくえにかざっておくことにしました。

するとそのよる、とてもきれいなうたごえがラッパ貝がらからきこえてくるようでした。「ねえ、なかにだれがいるの？」ミッチはあなにむかってよびかけてみました。

「ミッチの道ばたコレクション」シリーズは、ほかにも2さつあります。

## こずえと申す

吉田道子 作 宮尾和孝 絵  
ポプラ社

夏休みもあと少しで終わる。そんなころ、ぼくの家の新聞が郵便受けからぬすまれた。新聞のかわりに入っていたのは、いろいろな形のはっぱや木の实。

ぼくと弟は、そのなぞをとこうと、こっそりポストをみはることにした。ポストから新聞を持っていったのはタカのような鳥だった。タカをおいかけていくと、剣道が強く、むかしふうのこぼづかいをする「こずえ」という女の子と知り合った。こずえは、近くにある天狗山に自動車道を作る計画があり、そこにはいろいろな動物や植物が住んでいることを教えてくれた。

## シェフでいこうぜ!

上條さなえ 作 磯崎主佳 絵  
国土社

ぼくの父ちゃんは、タクシーの運転手。最近元気がなく、トイレ以外は布団の中にいる。

そこでぼくと母ちゃんは、父ちゃんに元気になってもらうプロジェクトチームを作ることにした。

そんな父ちゃんが、ある時「もうにどと、あのおふくろの料理を味わえないんだ」と言った。それならば、その料理をぼくが作ればいいんだ。

実は、ぼくは、母ちゃんに「絶対舌」(ベートーベンのことを絶対音感があると同じ意味こと。お母ちゃんの造語。)を持っているとおだてられ、一年生のころから料理を作っている。どんなものがおふくろの料理なのか調査を始めることにした。

## 高学年以上

## りぼんちゃん

村上雅郁 著  
フレーベル館

染岡朱理が、小学校六年生になった始業式の日。転校生の中村理緒は、ポニーテールにりぼんをつけてやってきた。担任の先生から、助けになってほしいと頼まれた朱理は、いつもいっしょにいて、理緒と親友になっていく。

そんなある日、ふたりで近所のヤマカワマーケットに買い物に行くと、レジで店員にどなっている茶髪の男の人がいた。こわくなって逃げるようにマーケットをでたふたり。理緒の顔は真っ青で、あきらかに様子がおかしかった。そして数日後、その原因がわかった。どなっていた男の人が、理緒のお父さんだったのだ。朱理は、理緒に何をしてあげられるのか、考えはじめる。

## 家族セッション

辻みゆき 著  
講談社

両親と妹と4人で平凡に仲良く暮らしてきた千鈴。もうすぐ中学生というある日、血のつながった両親が別にいると告げられる。同じ小学校だった、お嬢様育ちの姫乃、おとなしくてまじめな菜種と自分の3人が、赤ちゃんの時に病院ですり替えられたことが分かったという。

気持ちの整理がつかないまま、千鈴たちはそれぞれの本当の家族と交流を始めることになった。3家族合同で食事したり、テーマパークへ出かけたりするのは楽しかった。ところが、それぞれ本当の血縁の家に「ホームステイ」することになって!? 今までの家族と暮らし続けた千鈴たちは、作戦会議を開いた。